

自己評価結果表【タイプA】（児童自立支援施設）

評価結果

a
b
c

共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	自己評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】	
理念・基本方針は「管理運営要綱」に明文化し、ホームページや「事業概要」に明記している。職員は理念・基本方針、権利擁護に係る法令や書類などを綴じた「さわらび学園例規集」を常に手元に置き、「児童の最善の利益」を追求し、自立に向けた養育や支援に日々取り組んでいる。子どもや保護者には、「学園生活のしおり」で権利擁護の取組とともに、理念・基本方針を説明し、周知している。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	自己評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> こどもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】	
園長は県や県児童相談所、仙台市、全国児童自立支援施設協議会等との会議や研修会への参加、「宮城県社会的養育推進計画」等により、社会福祉事業の現況や地域の動向などの情報を収集し、今後の目標や課題などを把握し分析している。また子ども像の変化が推移される状況にあり、子どもの権利を代弁する意見表明の体制や寮の小規模化などを図る上で「児童の最善の利益」を守る職員体制や人材育成等について調査を行い、現状分析を行っている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】	

「事業概要」に重点事項として児童の権利擁護、個別支援の充実など4項目を挙げ、職員会議や学園・分教室合同職員会議、合同運営委員会等で業務上の問題点を話し合い、改善を図っている。児童の権利擁護は第三者評価や職員の「自己点検シート」、児童アンケートなどに取組んでいるほか、令和7年度から意見表明等支援事業を開始し、推進を図っている。また、被虐待経験や心身の障害を持った児童が増える状況にあり、常勤の心理療法担当職員など専門職の配置の増強や寮職員の増員など職員体制の整備が緊急の課題であり、継続的に県に要望を出している。今後は、県と連携し高機能化、多機能化、小規模化などの課題について、具体的な成果として課題解消の実現に努める。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>県は令和6年度において令和2年3月に策定した「宮城県社会的養育推進計画」（令和2年度～令和11年度）を全面的に見直し、新たな「宮城県社会的養育推進計画」（令和7年度～令和11年度）を策定し、児童自立支援施設の計画も明示した。園がこれまで県との協議を重ねながら、中・長期的な展望のもと、子どもの権利擁護や高機能化、小規模化、人材育成などに持続的に取り組んでいることが県の姿勢として示されている。</p> <p>今後は、策定された「宮城県社会的養育推進計画」（令和7年度～令和11年度）のもと、具体的な取り組みとして定員変更に向けた協議を行うとともに、園として理念・基本方針の実現に向け、中・長期に亘って取り組むべき一時保護委託機能を含めた多機能化等を具体的な数値目標や成果等を反映させた事業計画の策定を検討していきたい。</p>		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>事業計画として「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」を策定している。重点事項として児童の権利擁護の推進、集団生活の安定性を土台とした個別支援の充実等6項目を明記している。園の中・長期計画は策定に至っていないが「宮城県社会的養育推進計画」を踏まえた単年度計画は策定している。</p> <p>今後は、重点事項の具体的な計画を明記するなど年度終了時に実施状況が評価できる事業計画策定を検討する。</p>		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」の重点事項6項目は各寮で前年度の課題を検討し合い定例職員会議や合同運営委員会に繋げて検討するなど全職員参画で策定している。実施状況の把握や評価は寮運営や係の事業ごとに行い、業務の見直しを行っている。今後、重点事項に基づき実効性のある具体的な取組計画を立てること園全体の事業計画の策定していく。</p>		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもや保護者には入所時に「学園生活のしおり」や広報誌(太白山)で行事予定や年度の支援方針等を周知している。入所時に来園できない保護者には入所後の家庭訪問で分かりやすく丁寧に説明している。年度途中から入所した児童についても、各寮のグループワーク等の機会を通じて説明を行っている。また、保護者には参加等が望まれる事業について、連絡や面会の機会を捉えてや文書等で改めて周知を行っている。今後は、事業計画を子ども会においても説明しながら、計画の目的が理解されるよう取組んでいく。

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	自己評価結果
①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」の基本方針に処遇及び質の点検・評価と改善を掲げ、支援の質の向上に取り組んでいる。自己評価及び定期的な第三者評価の受審結果に対応した支援の実施状況の評価と改善、年2回職員の「自己点検シート」による虐待点検・児童処遇・寮における指導の評価と改善などを職員会議や定期的な分教室合同運営会議で検証している。日常的には、問題発生時には解決に向けPDCAをスピード感を持って回し、事後には再発防止の取り組みを検討する振り返りを行っている。また、個別に配慮が必要な子どもが年々増加しており、心理療法担当職員などの人員体制を確保するための体制整備について継続して検討・調整を行っている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

第三者評価結果や課題は明確化され、職員会議や合同運営会議で話し合い、改善に繋げている。令和6年度の第三者評価の改善課題である「ボランティア等の受け入れ」「プライバシー保護」等、未整備であった基本姿勢を明文化することができた。また「自己点検シート」や「ニコニコ相談シート」で把握できた課題を寮会議や職員会議、運営会議で検証し、改善へ繋げている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	自己評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a

<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

園長の責務や権限は職務分掌に明記されている。園長は職員同士の繋がりや互いの意見の共有を支柱に、「子どもの最善の利益のために」を意識して支援する職員一人ひとりの所属感、有用感を大切に考えている。園長は職員会議、学園・分教室合同職員会議、合同運営・定例生活指導委員会、カンファレンス会議等を通して、園の経営・管理・養育・支援の質や課題などの助言を行い自らの役割と責任を果たしている。有事の際の園長不在時の権限移譲も明らかにしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

園長は全国児童自立支援協議会や国立武蔵野学院などでの研修に参加し、遵守すべき法令等を理解し、職員会議で周知している。職員は県の職務に係る「倫理の保持ハンドブック」を保持し、服務規律の遵守に取り組んでいる。県のポータルサイトに関係法令の改廃が掲載され、職員はいつでも確認することができる。また県のシステムである「こころのみだしなみ」を通じて職員自ら法令遵守が守られているかを確認している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

園長は職員との繋がりを重視し、チームワークにより連携した支援力の向上に取り組む姿勢を表明している。園長は児童の自立支援計画のカンファレンスや生活指導委員会に参加し、入所児童の問題行動や生活不適應等に対する援助方針など児童の支援などの点検、評価に対して助言を行い、心理療法担当職員等の専門的な評価を踏まえた支援等による個別支援の充実を図っている。また園長は管理者の立場としての責任から、常に自己研鑽に励み参考となる文献等を職員会議で紹介するなど、自ら専門性の向上にも努め模範となっている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員の就業状況は施設の庶務担当者が管理し、園長に報告している。定期的に健康診断やメンタルチェックを行い、希望者には産業医の診断もある。福利厚生は県互助会で冠婚葬祭やサービス等の体制が整備されている。業務の特性上取得が不安定な休憩時間は職員間で声をかけ合い工夫しながら業務を行っている。宿直勤務の日数軽減などワーク・ライフ・バランスに配慮するため、職員の増員を含めた体制整備について検討・調整を行っている。新任・転入職員対象の研修会では知識の習得の他、勤務の状況や悩みを先輩職員と話し合う場を設定し、より働きやすい職場環境づくりに配慮している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「さわらび学園倫理綱領」や「児童の最善の利益を確保するための指針」に「期待する職員像」を示している。職員は「期待する職員像」や理念・基本方針を踏まえた園の目標を見据え、県の業績評価制度により自身の目標を設定し、園長と面談を行い中間、及び年度末に達成状況の評価を行っている。面談では評価の他、資格取得や研修の要望、業務やプライベートな悩み等多角的に職員の意見や要望を聞き、職員が安心して役割と責務を達成できるよう助言している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立基本方針」の重点事項に職員の専門性の向上を明記し、県や全国児童自立支援施設協議会による園長や基幹的職員対象の外部研修、新人や転入職員、全体職員対象の内部研修を実施している。心理療法担当職員による毎月のミニ講座のほか、児童福祉施設など関係機関の実地見学を取り入れた研修なども行ない、多様な計画体制により支援の質の向上へ繋げている。研修計画は研修係が職員からの意見を取り入れ策定し、研修後には職員アンケート結果を検討しながら、評価と見直しを行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】
 指導班長と副班長（寮長）が職員個別の知識や技術水準を把握し、新任職員、基幹的職員、全体職員、会計年度任用職員（宿直業務嘱託員）などに対して階層別研修やテーマ別研修の受講を促している。県メンター制度を活用し、新人職員一人ひとりに中堅職員が付き、習熟度に配慮したOJTも行っている。国立武蔵野学院の研修や社会福祉士通信教育、海外研修の報告、所属する保健福祉部での業務研究等の報告会で発表するなど意欲的に取り組む職員もあり、シフト調整による支援を行うなど協力体制で取り組んでいる。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

実習生受入れ業務は実習係が担当し、指導者研修を受講した職員がプログラムに沿って、社会福祉士や保育士を目指す学生の実習指導を行っている。大学とは継続的に保育士実習協議会等を通じて連携を図り実習生を毎年受け入れている。また実習生受入れマニュアルは児童の援助方法や特性のある児童への配慮などが明記され、学生に説明し周知している。実習生等の支援に関わる基本姿勢も明記されている。また、社会福祉士養成に係る実習についても、指導者研修の受講により受入れ態勢を維持している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

自己
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

ホームページに理念・基本方針、事業概要、自己評価や第三者評価結果等を公開している。年4回発行の広報誌「太白山」はホームページで公開するとともに地域の自治会長へは学園祭来訪時に配布している。苦情・相談は第三者委員である自立支援向上委員会に年2回公表し、報告を行い、必要な助言、児童の希望に応じた第三者委員による直接面談の機会を設けるなどして、第三者の視点を踏まえた支援を継続している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

県の財務会計諸規定に基づき、事務処理を行うとともに、内部統制システムによるチェックを行っている。毎年監査委員事務局の監査を受け、状況により監査委員による監査が行われている。また、年2回第三者監視機関としての自立支援向上委員（弁護士、主任児童委員）の児童面接を通して学園の運営について助言をいただき、公正かつ透明性の高い事業運営に努めている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己 評価結果
①	23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
園の運営方針に「地域との連携」や「地域開放及び地域交流を積極的に行う」などを明記し、地域の福祉施設や関係機関と連携し、子どもの特性に配慮しながら良好な関係が構築できる体制整備を計画的に実施している。神社の清掃、幼稚園の清掃及び遊具の塗装、教材づくりといったボランティア活動、地域の福祉施設や幼稚園への駐車場の貸し出し、学園祭での地域の自治会長の招待など園や子どもの理解を深めてもらうための取組を行っている。また地下鉄や買い物、近所の公園の利用、通院手段など子どもの個別のニーズに応じた社会資源の利用方法などを支援している。また、令和7年度からは子育て支援といった共通の使命を持つ幼稚園職員との合同研修会を実施し、互いの施設の理解、専門性の向上に向けたつながり作りを開始している。 今後とも児童自立支援施設に求められる機能などを踏まえ、児童のニーズも確認しながら地域住民との相互理解の場を増やし、地域に根ざした開かれた園の構築を検討していく。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
ボランティアは各寮のボランティア係が対応し、マニュアルで子どもへの配慮や個人情報保護に係る注意事項などを周知している。中国料理調理師会による調理やスポーツ交流等のボランティア活動を受け入れている。令和7年度において、ボランティア等受入れに対する基本姿勢を明文化した。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【判断した理由・特記事項等】		
「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」の重点事項に関係機関との連携強化を掲げている。特別支援学校等の教育機関、児童精神科等の医療機関、児童相談所、原籍校、家庭裁判所などと連携している。退所後の児童の支援は家庭支援専門相談員が原籍校や就労先など関係機関と連携し子どもや家族支援を行っている。社会資源リストは県のネットワークでいつでも把握できる体制が整っている。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

	(社会的養護共通) □施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) □地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【判断した理由・特記事項等】

園の運営基本方針に「地域社会との連携」「地域開放及び地域交流を積極的に行う」を明記している。これまでは駐車場の貸し出しや神社の清掃など限定的であったが、今年度から地域の幼稚園との研修・交流の場を設けるなど、地域のニーズを把握し、園の機能を地域に還元する取組を行っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	□把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	□多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	□施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	□地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

園は社会的養護の役割を持つ施設であり、特別に配慮が必要な児童に鑑み、地域住民との協働の事業は慎重を期し、地域の神社の清掃ボランティアなど限定的である。大学や小・中学校や福祉施設、民家に囲まれた園の立地環境を考慮し、地域の福祉ニーズに対応した研修会や講演などの取組を模索している状況にある。
 今後は、地域の福祉ニーズを捉え、専門性を活用した公益的活動をどのように行うか、地域の幼稚園との研修を契機として検討していく。

Ⅲ 適切な支援の実施

1 こども本位の支援

(1)	こどもを尊重する姿勢が明示されている。	自己評価結果
①	28 こどもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	□理念や基本方針に、こどもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	□こどもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	□こどもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	□こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	□こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

理念や「令和7年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」に「児童の権利擁護」と「児童の最善の利益を追求する」の基本姿勢を掲げている。職員は毎月の職員会議で「さわらび学園倫理綱領」を読み合わせし、子どもを尊重した支援への意識を高め、「自己点検シート」で支援内容を自己評価し、支援に取り組んでいる。定期的な児童相談所の面接や自立支援向上委員会の面談もあり、園の支援の質を確認いただいている。定期的に「いじめアンケート」も実施し、子どもの権利擁護が侵害されていないかなどを確認し支援している。また令和7年度からアドボカシーを実施し、「児童権利擁護委員会」を設置して運営について検討している。また、権利擁護の研修を実施したり、弁護士による虐待防止研修を受講している。

②	29 こどものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	□こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した支援が実施されている。	○
	□一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○

こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。

【判断した理由・特記事項等】

「児童の最善の利益を確保するための指針」にプライバシーに係る子どもの私生活・家族・通信（手紙・電話等）について子どもや保護者の同意の上で行うと明記している。「学園生活のしおり」には児童の権利擁護を前提としたプライバシーに係る生活支援上の制限を明記し、子どもと保護者に説明している。生活場面での「プライバシー保護要綱」も策定し、職員の理解と周知を会議等で行った。

(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 こどもや保護者等に対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定のこどもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもや保護者には、入所前から「要覧」や「学園生活のしおり」で説明し、必要なケースについて複数回実施している。文書での説明の他、入所前には施設見学を行うなど、子どもや保護者の状況にあわせ個別に丁寧な説明を心がけている。「学園生活のしおり」は児童相談所の協力や職員意見を反映させて作成し、ルビをふった大きな文字で見やすく工夫している。「要覧」や「学園生活のしおり」は適宜、見直しを行っている。

②	31 支援の開始・過程においてこどもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う支援についてこどもが可能な限り主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、こどもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、こどもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難なこどもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもや保護者への入所の説明・同意は児童相談所で行われ、施設では「学園生活のしおり」を読み上げながら分かりやすく説明し、確認書を取っている。また児童相談所と連携し保護者や子どもに大きな紙面で「自立支援プログラム」を示しながら不安を解消できるよう丁寧に説明し、意思決定が難しい子どもや保護者には状況に応じて、ゆっくりと分かりやすく説明するなど支援している。また、学園での課題を可視化し関係者（子ども、保護者、支援者等）が共有することで、必要な支援を明確にしている。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設としてこどもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、こどもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

施設に移行の際は、児童相談所から次の施設に引継ぎ内容が伝わり、家庭への移行は在園時から支援してきた家庭支援専門相談員が継続して退園及び退園後の支援を行っている。また「退園生事後指導計画」を策定し、児童相談所や関係機関と連携し、子どもと保護者に寄り添いながら支援を行っている。毎年退園後に地域で自立し、生活している退園生が園を訪問し、園長や職員に近況を伝えながら懇親を深めている。

(3) こどもの満足の向上に努めている。

自己
評価結果

①	33 こどもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもへの個別の相談面接や聴取等が、こどもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、こどもの満足を把握する目的で、こども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

寮ごとに定期的に職員と子どもと一緒にグループワークを行い、嗜好や私物の所持等の満足度など子どもの生活上のルールとの不具合や希望を聞き取り、子どもと共に改善へ繋げている。また各寮からの役員で構成された子ども会が組織され、行事計画策定やDVDの鑑賞会など子どもの意向を尊重し、支援している。「ニコニコ相談シート」による苦情や相談では自立支援向上委員との話し合いや年2回の個別面談など、要望や意見を出せる仕組みを整備している。また、各種行事等の実施後には、作文やアンケートにより満足度等を調査し、改善を図っている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/>	支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

「苦情解決処理要領」を策定し、第三者監視機関として自立支援向上委員2名を配置するなどの苦情解決体制を整備している。子どもと保護者に「学園生活のしおり」で仕組みを説明し、苦情や意見は各寮と玄関に設置した意見箱に「ニコニコ相談シート」を投函することとしている。令和7年度はこれまでに2件の苦情・要望があり、園長・指導班長が子どもと面談し、状況を寮長や職員に繋げ、改善へ向けて対応している。また、アドボカシーによる意見表明の機会を設け、意見形成を含めた支援を継続している。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

「学園生活のしおり」に困った時の相談方法や相談相手を自由に選べることを明記している。また、個別に安心して相談できる面会室を各寮に設置し、プライバシーを守り、安心して話せるようにしている。意見箱は玄関と寮ごとに1個ずつ設置し、意見を出しやすいよう配慮している。アドボカシーも今年度から導入し、新たな相談体制が整備された。園長は、子どもへの温かい眼差しや声がけによって子どもが安心して相談しやすい関係性が築けることを職員に周知している。年2回児童は自立支援向上委員との面談の機会があり、相談や意見を伝えることが出来るよう配慮している。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

相談・意見対応は「苦情等解決処理要領」に基づき苦情解決の仕組を包括的に運用している。子どもの意見表明の機会を増やす上での定期的な自立支援向上委員との面談、令和7年度から実施しているアドボカシー、「いじめアンケート」やテーマ別アンケートの実施、寮ごとの意見箱の配置などを行っている。出された意見や相談は寮の担当者が子どもと面接を行い、内容は即、園長や寮職員に伝えられ、迅速な対応が図られている。場合によっては子どもの意向を踏まえ、第三者である自立支援向上委員会で検討し支援方針を共有化し、改善に繋げている。アドボカシーについては、意見表明等支援事業実施要領に基づき必要な措置を講じている。また、「苦情等解決処理要領」は随時、見直しを行っている。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。	自己評価結果
① 37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「安全管理実施要領」及び「安全計画」を策定するとともに、リスクマネジメント責任者を明確化している。インシデント発生時は発生状況や要因を検討し、定例生活指導委員会や職員会議で再発防止策を検討し、解決している。また「どきどき・あんしんマニュアル」に事故発生時の共通対応指針を明示し、事故対応・衛生管理・指導困難場面对応マニュアルなどを整備している。マニュアルは年度初めに新任研修により周知し、見直しもを行っている。子どもの安心・安全確保に繋がる軽微な事例や気づきのヒヤリハットを収集し記録を行い、職員会議等で要因分析と再発防止策の検討をおこなっている。

② 38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

感染症対応マニュアルや衛生管理マニュアルを策定し、保健係(看護師と寮職員)が研修により予防法やマスク、手洗い、消毒等の適切な方法を助言、指導し、子どもへも周知している。また感染症を想定した対応計画を策定し、感染症発生時の事業継続や復旧のための机上訓練を毎年実施している。

③ 39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	

地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。

【判断した理由・特記事項等】

「県災害対策本部要綱」に基づき、施設の防火管理体制を構築し、「宮城県さわらび学園消防計画」を策定している。消防計画は地震、大雨・洪水対策、火災対策を明記し、毎月非常災害別に避難訓練を行い、不審者対応想定訓練も実施している。6月と10月には総合防災訓練を行っている。またBCP計画（自然災害を想定した事業継続計画）を策定し、机上訓練を毎年実施している。県緊急時安否確認システムにより職員、宿直員の安否確認が行われており、備蓄は約3日分を整備している。現在、施設版BCP計画を鋭意策定中である。

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		自己評価結果
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】		
「宮城県さわらび学園児童自立支援方針」により、「子どもの権利擁護」や「子どもの最善の利益を追求する」姿勢が明文化されている。入職時には、新人研修として「新任職員研修」「発達障害セミナー」等を受講し、基本的なスキルを習得したうえで、「児童自立支援プログラム」に基づいて支援を実施している。児童自立支援プログラムには、援助基準期間や自立達成水準が記されており、自立支援計画書の標準的な作成マニュアルになっている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】		
「宮城県さわらび学園児童自立支援方針」は毎年見直しをおこない、「寮生活のルール」では、児童と職員が共通認識のもとに支援を実施している。寮生活のルールを決める際には寮内でグループワークを行い、児童の意見を確認している。「髪形の規律」については、児童の意見を尊重した上で、生活指導委員会で検討している。また、「自己点検シート」や「ニコニコ相談シート」の内容から課題となる点についても検討している。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	<input type="radio"/>	
【判断した理由・特記事項等】		

児童相談所等や原籍校等からの情報をもとに、児童の生育歴を把握し、家庭環境や問題行動等から、児童の抱える課題の背景も含みアセスメントを実施している。入所前から、学園生活での支援目標を児童を含め関係者で明確化するため、入所前の動機付けから連携を強化するとともに、多様化する入所児童の理解を深め、寮職員はもとより、分教室、心理療法担当職員、家庭支援専門相談員等による組織的な対応方針をチームアプローチにて実施している。自立支援計画書には、児童と家族の意向に加えて長期目標に退園時の状態像が掲げられ、定期的を実施するカンファレンスで検討・見直しを行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、こどもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「児童自立支援計画書」には、本人及び家族の意向を明記し「児童自立支援効果表」のもとに、児童と職員が話し合いを行い、3か月ごとに見直している。また、「児童自立支援プログラムにおける達成状況の評価と到達段階」において、支援の成果を評価するとともにカンファレンスにおいては、園長や寮長、担当職員、分教室、原籍校、児童相談所等の職員が出席し、課題や支援方針について検討を行っている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 こどもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「さわらび学園管理運営要綱」に「自立支援日誌」の様式を示しており、ケース記録は「児童記録簿作成要領」にしたがって児童の行動像を記録している。また、各種の会議記録もまとめており、データ化したものを園内のネットワークにて共有している。

②	45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、こどもや保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人情報保護事務の手引きがあり、法律等の解釈及び運営基準を明確にマニュアル化している。宮城県情報セキュリティ対策基準には、園長が管理責任者として明記されている。記録を行うパソコンには、職員個人ごとにパスワードが設定されており、本施設の事務室と寮の勤務室で使用している。また、パソコンから離れる場合にはロックし、勤務室が不在になる際には、部屋を施錠することを徹底して管理している。

内容評価基準（25項目） A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) こどもの権利擁護	自己評価結果
<p>① A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【判断した理由・特記事項等】

さわらび学園の運営方針では、こどもの権利擁護を重点事項として取り組んでいる。「学園入所児童権利擁護指針」に基づき、苦情要望の受付や自立支援向上委員による面談、意見表明等支援事業など、こどもの権利を擁護する仕組みが整っている。また、「学園生活のしおり」には「こどもの権利」を明記しており、子どもと職員が共通認識のもとに学園生活が過ごせるように作成されている。「ニコニコ相談シート」や「いじめアンケート」、個別のアンケートや作文を通じて、こどもの状況を把握し、「最善の利益」について意識した支援を実践している。令和7年度には学園、分教室合同による「児童権利擁護委員会」を立ち上げ、権利擁護に係る取組みについて、更新、見直しを継続的に行う体制を整備した。

<p>② A2 こどもの行動制限等は、その最善の利益になる場合のみ適切に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設として、こどもの行動制限等についての規程やルール、マニュアル等を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの行動制限等は、規程やルール、マニュアル等に即して行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程やルール、マニュアル等を定期的に検証し、必要な場合には見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの行動制限等について、職員間で検証・検討する場を設ける等により理解の共通化やより良い対応に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの行動制限等を行った場合、必要に応じて児童相談所等に報告している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	---

【判断した理由・特記事項等】

さわらび学園入所処遇基準に基づき、こどもの暴言や暴力等の問題行動についてルール化して対応している。問題行動の状況に応じて安全部会を招集し、外部委員の意見等も踏まえながら、こどもの行動制限前に「目的」、「児童の課題」、「行動制限の内容」、「期間」について子どもが内省を深められるよう生活指導委員会で協議が行われている。行動制限中のこどもの状態や変化の状況は明確に記録し、実施後には評価を行っている。

<p>③ A3 こどもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるようにこどもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 日常生活の中で起こる出来事を通じて、こどもの自身や他者の権利について正しい理解につながるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの状態に応じて、権利と責任の関係について理解できるように説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。（例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会）</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員研修として、こどもの権利に関する学習機会を持っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	--

【判断した理由・特記事項等】

「学園生活のしおり」には、寮生活のルールや困った時の対処方法などを簡潔にわかりやすく明記している。入所前の面接時から、子どもは自分の権利が守られること、他者の権利についても守られることの説明をしている。玄関と各寮に設置された「要望等受付票」や「ニコニコ相談シート」により要望や苦情の申し立てができるようにしている。また、自立支援向上委員による権利擁護の仕組みなどについては、児童を対象とした「権利擁護システムの説明会」や、入所時と日常生活の中の出来事から権利ノート等を活用し説明している。職員は、発達障害、トラウマ、愛着障害等、入所児童の多様化に対応できるよう全体研修やミニ講座で学習している。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、こどもに周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

「施設内虐待自己点検シート」では、17項目の「施設内虐待」を各自チェックし集計票を作成、ヒヤリハットやインシデントからの収集と合わせて、園内で共有している。被措置児童虐待対応の流れはフローチャートで示されている。「生活の困りごと」や「いじめアンケート」で、虐待へ繋がるような事案があれば、園長に速やかに情報を集約し、早急に全体周知して注意喚起し、フローチャートに沿った対応が行われるよう体制を整えている。「さわらび学園例規集」のファイルは全職員が保持し、職員が個々に、支援の振り返りや自己点検ができるよう整備している。

(3) こどもの主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A5 こども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> こども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもたちが施設の行事・余暇活動の企画・運営等にかかわることができる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが生活上の問題や課題について主体的に考え、その上で取組、実行、管理するといった内容を含んだ活動をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活全般について、日常的に話し合う機会を確保し、生活改善に向けての取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの発達段階に応じた生活習慣や生活技術の習得に向けた支援を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子ども会において、行事への参加を通じて、お互いを尊重し理解しながら成功体験を重ねられるように支援を行っている。定期的な寮のグループワークでは、日常の様々なできごとについて、子どもの特性を理解した上で寮ルールの確認や振り返りを行っている。職員は、子どもの経験の幅を広めるため、買い物や余暇の過ごし方などの体験を通じて指導や支援を行っている。

(4) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 こどもが安定した生活を送れるよう退所後も継続的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 退所したこどもの自立のための通所支援を積極的に実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて訪問による支援を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所したこどもの来所を温かく受け入れ、自立を励まし、支援する取組を行っている。必要な場合は短期間の宿泊による支援を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所したこどもの自立のための通所による支援を実施するうえでの課題や条件整備について前向きに検討している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アフターケアは施設の業務であり、退所後何年たっても施設に相談できることを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況を把握し、退所後の記録を整備している。	<input type="radio"/>

必要に応じて、児童相談所と協議の上、市町村の担当課と情報共有し、地域の関係機関、団体等と積極的な連携を図っている。

【判断した理由・特記事項等】

入所時に、児童相談所や関係機関からの情報をもとに、カンファレンスで検討して退所時期の調整を行っている。「退園生事後指導計画書」は、基本情報、退園後の支援関係機関、退園後の課題、問題行動の対処法などを整理しており、子どもへ説明して渡すと共に、退所先と共有して継続支援を実施、記録している。退所後は、家庭支援専門相談員が家庭訪問し、子どもの現状況と支援者のニーズを把握し、関係機関と学園の担う役割を適宜確認し連携を図っている。また、退所後も子どもから相談できることを伝え、来園による面談を行っている。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		自己評価結果
①	A7 こどもと職員の信頼関係を構築し、家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、こどもたちが日常生活の中で「大切にされる体験」を積み重ね、信頼関係や自己肯定感を取り戻すことができるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもに安心・安全な生活を提供して不安の解消を図るとともに、こどもの良さ、強み、潜在的な可能性を見つけるなど、こどもに対する受容的・支持的かかわりを心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもたちがお互いにその人格を尊重し、お互いの長所を認め合い、助け合うことのできる良質な集団づくりを行うなど、集団生活の安定性を確保するための取組がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりのこどもと良好な関係が持てるよう、職員とこどもが個別的にふれあう時間を確保したり、施設全体の行事とは別に小集団での行事等をこどもと計画を立て実施するなどの工夫がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの集団生活の状況に応じて、臨機応変に生活の内容を変えて対応している。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】		
職員は、常に「子どもの最善の利益」を意識し、子どもの障害や特性を考慮して担当職員を決定し、自立支援計画に基づいて子どもと関わっている。職員は、子どもの抱える不安な思いに寄り添い、その課題と一緒に取り組む姿勢をもち、寮の調理場でのお菓子作りや買い物、飲食など個別に支援している。スポーツや寮のグループワークを通じて、子どもたちが助け合いや認め合いを学ぶ機会を確保している。その前段として、子どもが安心して子ども集団でグループワークに参加できるよう、担当職員を中心に個別に子どものニーズが充足されるよう支援している。		
②	A8 こどもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、約束ごとを理解できるようこどもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。また、こどもたちにわかりやすく具体的に文書等で示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への参加等を通じて、社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが個々のニーズに応じて主体的に余暇活動などを行い、それを通して、協調性や社会性を養うように支援している。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】		
「学園生活のしおり」に寮生活のルールを明文化しており、寮ごとのグループワークで、子ども同士で話し合う場を設けている。「学園生活のしおり」や「子どもの守る約束」にはルビを振り、日常生活の場面で子どもに説明して理解を促している。児童からのルールについて疑問があれば、そのルールの必要性についてグループワークで話し合い、場合によっては学園全体として検討している。職員は、「挨拶」や「言葉遣い」においても子どもの見本となるよう努め、子どもから職員の言動について指摘された場合、それを振り返りの機会とし反省し、子どもとの信頼関係を構築しながら子どもの社会性が養えるよう取り組んでいる。また、買い物訓練、寮の社会見学、ボランティア活動により地域社会への参加をし、社会ルールを獲得する機会を設けている。		
③	A9 自らの加害行為に向き合うための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 加害行為を行ったこどもが自分の行為を振り返り、きちんと向き合うための支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 振り返る際、行動上の問題が発生した要因等について自己理解を深め、その軌道修正をはかることができるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> この取組を通して成長できたという成長感や自己肯定感などを育成できるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所後の行動上の問題への対応について、職員間でケース会議を行い、検証を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

問題行動について、子どもが向き合えるような法的な社会ルールの理解や代替の表現方法など、個別に支援を行っている。そのため、入所の際、児童のどのような行為について改善することが必要か、児童と支援者が課題を共有出来るような機会を設けている。職員は、「何について、どのような気持ちで、どのようなことができるのか？」など、子どもに寄り添った支援を意識している。必要に応じて法務省管轄機関と連携し、「法教育」の機会を提供している。また、「児童自立支援効果表」は、子どもと職員で一緒に振り返り評価している。カンファレンスでは、子どもの生活状況や課題、支援方針を職員、分教室及び児相、学校で共有している。寮日誌に記録された子どもの状況や活動は、「健康状態」「寮生活情報」「精神科及び心理所見」「分教室」について整理され「在園児童の状況報告書」として児童相談所へ報告している。

(2) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身に付けることができるよう食育を推進し、団らんの場として明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの個人差(年齢、障害等)やこどもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のあるこどもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事を美味しく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的なこどもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

食堂にはピアノを配置し、季節の飾りつけをして家庭的な環境のもとで食事ができるように工夫している。誕生日や季節イベント献立、リクエスト献立やおかわりできる献立もある。日課の中に食事時間を確保し、子どもの状況により代替食や個室で食事をする等の配慮をしている。栄養士による栄養管理が行われ、子どもの食事状況に変化がある場合には、栄養士との情報共有を密に行っている。寮の調理場では、職員とともに簡単な料理やお菓子づくりをする等の個別支援を行っている。

(3) 日常生活等の支援

①	A11 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 破れやほつれなどの修繕が迅速に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れが無いものが着用されている。	○
	<input type="checkbox"/> ボタン付けや簡単な修繕ができるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 用途や体に応じた靴を提供し、清潔な靴を大切に使う習慣を身につけられるよう支援している。	○

【判断した理由・特記事項等】

生活や活動に必要な衣類を提供し、外出や通院用として、私服の準備や管理を子ども自身で行えるよう支援している。職員は、着替えや衣類修繕などの声かけをして促し、職員も修繕が必要な衣類を回収し交換する、衣習慣の習得や簡易な修繕などの指導、教育は行っている。
今後とも、子どもの障害や特性に応じた衣類等の交換や修繕に係る支援について見直しを行うなど、定期的に支援する体制について検討していく。

②	A12 居室等施設全体が、こどもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 建物の内外装、設備、家具什器、庭の樹木、草花など、こどもを取り巻く住環境から、そこにくらすこどもが大切にされているというメッセージを感じられるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 居場所となるように家庭的な環境としてくつろげる空間などを確保するように努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるようになっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、こどもの状況に応じて配慮を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 疾病時などに静養できる個室や特別な部屋等を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 着替えなどプライバシーを守れる環境を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> TV、DVD、音楽プレイヤー、楽器や本などこどもが楽しめる環境を整えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが安心して十分に睡眠がとれるように配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

建物内は温かみが感じられるよう配慮し、軽度な修繕や掃除により環境整備を行っている。共用室には、ソファを置き、本棚には漫画本を準備、TVは自由時間に録画して鑑賞できるなど家庭に近い環境づくりを心掛けている。全てのこどもが個室として使用できず、仕切りのない部屋を2人で使用している場合もあるが、できるだけプライバシーに配慮するよう意識している。建物の老朽化による不具合はあるが、工夫して使用している。今後は、中・長期計画をさらに推進させて、学園の老朽化に伴う設備の改修や小規模化に対応する施設の環境づくりについて、県と連携し協議するなど持続的に取り組むこととしている。

③	A13 スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> スポーツ活動(クラブ活動)は、身体能力を育てるだけでなく、責任感、協調性を身につけ、自己肯定感を醸成する機会として実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 文化活動は、こどもの持っている興味・関心を引き出し、こどもの個性を伸ばすだけでなく、豊かな人間性と社会性を育む機会として実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの興味、好みを可能な範囲で取り入れ、体制を整えて支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの発達段階に応じた内容が取り入れられ、こどもが達成感を得られやすい目標設定で支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ルールを尊重するとともに、こども間の協力やチームワークなど、こどもの社会性の発達を支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが自主性や自発性を持った活動を行い、最後までやり通せるように支援している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

男子は野球、女子はバドミントンを通じたスポーツ活動が行われている。男子は東北大会や全国大会への出場、女子はFASカップでの優勝をめざし、こどもがチームの中の一員としての役割や達成感を体験しながら協調性を養えるように取り組んでいる。また、招待されたスポーツ観戦(野球やサッカー)をすることで、こども同士の共通話題にもなり、チームとしての活動にも活かしている。スポーツ系の職員が中心となり、活動内容や指導について検討し、寮のグループワークでこども同士が話し合っ活動している。文化活動については、寮の社会見学や帰省代替え行事など、児童の興味関心を確認しながら実施している。活動内容は、寮日誌に記録している。

(4) 健康管理

①	A14 医療機関と連携して一人ひとりのこどもに対する心身の健康管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要するこどもについては、医療機関と連携して、服薬や薬歴のチェック等を行い、日頃から注意深く観察している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
<input type="checkbox"/>	職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○
<input type="checkbox"/>	受診や服薬が必要な場合、こどもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
<input type="checkbox"/>	こどもの心身の異常の訴えに適切な対処を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	インフルエンザの予防接種など接種できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	保健師や養護教諭(分校等)と連携をとっている。配置のない場合は配置に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	定期的な健康チェックを実施するなど、こどもの健康状態・発達状態の把握や健康管理に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

定期的な医療通院や検診は、保健係(看護師と寮職員)が管理して支援している。職員は、勤務室で子どもに薬を手渡し、服薬するまで目視して確認している。また、児童に服薬の必要性や効果等について、理解できるように支援を行っている。急変時対応はマニュアル化され、子どもの状況により主治医に相談し入院加療につなげるなどの個別支援を行っている。感染症対応マニュアルや衛生管理マニュアルを策定し、保健係による研修の実施や感染予防のために個室での食事摂取などの対応を行っている。

②	A15 身体の健康(清潔、病気等)や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/>	医療機関との連携による取組を通して、こども自身が身体の健康や安全を自己管理できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	○
<input type="checkbox"/>	うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	○
<input type="checkbox"/>	洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	定期的な理美容をしている。	○
<input type="checkbox"/>	こどもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	軽いケガや疾病などの処置ができるような体制を整備している。	○
<input type="checkbox"/>	基本的な疾病やケガに関する知識や対処方法を学ぶ機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/>	施設内における危険箇所を把握し、職員、こどもに注意喚起が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

身体整容は、定期的に声かけや指導を行い個別に対応している。擦り傷などの軽傷は、看護師へ相談することでセルフケアを促している。洗濯は、「しわをのばして干す」など、一緒に行いながら洗濯方法の習得を支援し、食堂には、手洗い方法がわかりやすく図で示して掲示している。薬物による影響や乱用については、分教室で教育が行われている。保清に関する児童からの希望について、安全に実施できるよう支援を行っている。

(5) 性に関する教育

①	A16 性に関する教育の機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/>	年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	○
<input type="checkbox"/>	年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を理解する機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/>	児童自立支援施設に相応しい性教育についての職員の学習会を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	必要に応じて外部講師を招いて、学習会などを職員やこどもに対して実施している。	○

日頃から職員の間で児童自立支援施設に相応しい性教育のあり方等について意見交換している。

○

【判断した理由・特記事項等】

「入所児童の性に関する知識・経験の確認票」により子ども状況を把握し「性知識アンケート」を実施している。プライベートゾーンについての資料が作成され、子どもにもわかるように説明している。命育係の職員は、外部講師による研修実施や寮単位で実施するプログラムなど年間計画を作成している。研修内容に応じて、年齢や性別、集団や個別、分教室での教育内容をわけて習得する機会を検討し、学園の自立支援活動の一環として性教育を行っている。職員に会議や研修で、性加害児のメカニズムの理解、支援についての学ぶ機会を設けている。

(6) 行動上の問題に対する対応

①	A17 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の密室・死角等の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害の発生予防に努め、発生した場合においても適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員では暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力防止プログラムの活用など、子どもに対して暴力防止に向けた支援を展開している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内での重要なルールとして「暴力防止」を掲げ、日頃から他者の権利を守ることの大切さを子どもと話し合う機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成や部屋割りなどには、子ども同士の関係性に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめについての対応マニュアルを作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの遊びにも職員が積極的に関与するなどして子ども同士の関係性の把握に努め、いじめなどの不適切な関係に対しては適時介入している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「学園生活のしおり」には、「けんかや口論により他の児童に迷惑を及ぼし、またはいじめや暴力を行なうこと」が学園生活の禁止行為として明文化している。寮では、心理療法担当職員によるグループワークを実施し、心理教育や問題行動の発生予防に取り組んでいる。また、「いじめアンケート」の実施や「ニコニコ相談シート」により、子どもの状況を把握し、内省を深めて振り返るとともに、行動化しないよう支援を行っている。問題行動等の処遇に関しては、開始時と終了時に生活指導委員会において評価検討している。

②	A18 子どもの行動上の問題に適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急事態に対する対応マニュアル等を作成し、組織的な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が、子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについては、問題となる行動を観察・記録するとともに子ども本人からの訴えを傾聴し、発生の要因やメカニズムなどについて子どもと共に分析して、子どもに説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な支援技術を習得できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の子どもの安全、安心な生活を破壊し、施設の生活を成り立たせなくする暴力行為等に対し、施設全体で対応する仕組みを設け、周囲の子どもの安全を図る配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 集積した子どもの行動上の問題に対して、多角的に検証して原因を分析したうえで適切に対応し、また、記録にとどめ、以後の対応に役立てている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所、警察機関などの関係機関と日常的に連絡を取るなど、緊急事態への対応が円滑に進むよう対策を図る。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関を含めてケースカンファレンスを実施し、その対応策などについて検証している。	○

影響を受けた子どもへの配慮ある支援を行っている。

【判断した理由・特記事項等】

「児童の生育歴」シートには、適切な支援に向けて発達段階ごとに子どもの状況を記している。また、暴力などの問題行動に至る成長過程をアセスメントし分析している。職員は、子どもに対しての「良い関わり」と「NGな関わり」を意識し、子どもには振り返りを促してトラブル発生時の問題解決の方法を指導し、「自立支援計画」に基づいて支援している。暴力行為やいじめに関する子どもの処遇については、生活指導委員会で指導や教育方針を共有して検討している。安全部会においても子どもの問題行動を共有し、「子どもの最善の利益」について検討する仕組みを整えている。カンファレンスでは、園長や寮の職員、児童相談所、分教室や原籍校の教諭も参加して処遇方針を決定している。児童の行動上の問題発生時に係るマニュアルを策定し、それに基づき対応している。

(7) 心理的ケア

①	A19 必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理的な支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応じて、有効なプログラムを柔軟に組み合わせたり修正したりして、心理的な支援プログラムを作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的な支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、心理的な支援が行える体制ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども個々に心理的ケアの担当者を決め、定期的に心理的な支援を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて心理検査などを行い、ケースカンファレンスを通じて、ケア効果について評価し、見直しを行いながら、継続的に心理的な支援を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 良質な生活環境づくりを行い、施設での生活そのものが心理的ケアとなるような生活環境の提供に努めている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

心理支援は、心理検査や毎月の心理療法担当職員による面談、寮ごとのグループワークや児相の担当心理司との連携により行われている。必要時には、医師の見立てや児童相談所と連携を図り、心理療法担当職員が中心となり、「アンガーマネジメント」や「SST」のグループワーク及び「トラウマインフォームドケア」などの心理教育を実施している。グループワークは、テーマを決めて、目的や目標を明確にし、寮会議で共有して「自立支援計画」に基づき支援している。職員は、研修受講や施設内でスーパービジョンを受ける体制が整えており知識を深めている。

(8) 学校教育、学習支援等

①	A20 施設と学校の緊密な連携のもと子どもに学校教育を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益をこうむらないように、学習進路等の支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設と学校が個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた行動上の問題に対しては、学校と協力して対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校との協議に基づき、子どもの個々の学習計画を立て、それに応じて支援し、計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設は子どもにとって学校で認められ、活躍できる居場所となるように支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個別ケース会議には、原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は、退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

分教室において子どもの学習指導を行っている。自立支援計画では、子どもの進路や将来に関する意向と課題や目標を明確にし、分教室での活動や行動変容にも着目して、朝の引継ぎで共有して連動した支援を行っている。自立支援プログラムにもとづいて退園の時期や自宅復帰に向けての評価を行い、家庭支援専門相談員との面談やカンファレンスによる学習や進路について共有、検討を行っている。カンファレンスには、園長や寮職員と分教室や原籍校の教諭、児童相談所の職員等が出席している。学習計画については、カンファレンス時に進路を踏まえ検討しているが、児童の個別学習計画までは明文化していないため今後改善の検討を行う。

②	A21 学習環境を整備し、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学習ボランティアや学習塾など社会資源を活用して学習支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 就業に結びつく資格取得や検定を受ける機会を設けている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもの年齢に応じて、生活日課として自習時間を設けている。子どもの特性や能力に応じて、漢字検定などの情報や書籍の提供、受験の手続きなど、分教室と協働により可能な支援を行っている。学習への苦手意識や特性から学習に取り組むことが困難な児童も多く、学習習慣の定着のための支援に時間を要する状況にある。また、学習ボランティアについては受け入れの検討・調整を行っている。

③	A22 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して自立に向けた支援に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	
	<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習に対する施設としての取組について、規定を設けるなどして、職員が共通認識をもって、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが、作物などの育成過程を通して、協働して作業課題を達成する喜びを体験し、勤労意欲の向上、心身の鍛錬を図れるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 仲間との共同作業などを通して、人間的ふれあいや生命の尊厳及び相互理解を深め、社会性や協調性を培うように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 働く体験を積み重ねることで、根気よく最後まで取り組む姿勢など社会人として自立するために必要な態度や行動を育てている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自然の環境の中での作業体験を通して、情操の育成が図られるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 作業カリキュラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に実施している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

寮の周りの家庭菜園での野菜の収穫、環境整備などの体験を通じて、作業課題に対する意欲や協調性を養っている。また検定試験の受験や進学を前提としたオープンキャンパス見学なども行い、進路の自己決定ができるよう支援している。将来の自立へ向けての就労や社会経験は児童の実現可能な体験や情報提供などを分教室と連携して取り組み、近くのガソリンスタンドでの職場体験、児童それぞれの目的地へ向かうための公共交通機関の乗車体験、近隣の神社の清掃ボランティアの取組など積極的に支援している。事業主等とは学園行事に招待するなど、関係を切らさないような働きかけを継続している。

④	A23 進路を自己決定できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、必要な資料を収集、多様な選択肢と判断材料を示して子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、施設入所を継続し、こどものニーズに応じた社会経験を積めるように配慮し、進路支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 高校卒業予定のこどもが入所している場合、進路支援をしている。	
<input type="checkbox"/> 進路支援カリキュラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 退所後に不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用し、進学あるいは就職したこどもや継続して自立支援を必要とするこどもに対しての支援を継続している。	○

【判断した理由・特記事項等】

分教室、親や児童相談所と連携して、子どもの意向を確認しながら進路についてイメージできるよう必要な情報提供を行っている。インターネットによる進学先の情報収集やオープンキャンパスの見学、模擬試験などの経験を通じて、心配なことや子どもの強みを親にも伝え、子どもの意思を尊重して親子で進路決定が行えるよう支援をしている。また、退所時期や通学方法なども検討し、家庭支援専門相談員による継続支援の体制を整えている。

(9) 親子関係の再構築支援等

① A24 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、アセスメントに基づく家族支援の計画が記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 家族支援の計画は、保護者や児童相談所などの関係機関等と協議して策定され、必要に応じて見直している。	○
<input type="checkbox"/> 親子の関係改善を目的に、日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせたり、施設行事などへの参加を積極的に促し、その際、受容的ななかかわりを心掛けて、信頼関係を築くようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅は、こどもと保護者等との協議によって目標を立て、必要に応じて児童相談所とも連携して実施している。	○
<input type="checkbox"/> こどもや保護者等の安定した関係に配慮し、保護者等の養育力の向上に資するよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 家族の抱える課題に対して、児童相談所と連携しながら、または独自に、保護者等と定期的に面接やカウンセリングあるいは家族支援プログラムを行うなど、具体的な支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「自立支援プログラム」や「自立支援計画書」に基づき、こどもと家庭の状況に応じて一時帰宅を実施している。毎日の電話連絡や家庭支援専門相談員の自宅訪問によって、家庭生活の状況を確認している。家庭支援専門相談員は、子どもの気持ちや困り感を代弁し、子どもの障害や特性、関わり方などを保護者へ伝える等、親子の関係の再構築を支援している。また、児童・保護者それぞれと、一時帰省前には目的の共有、不安があれば傾聴し必要な助言等を丁寧に行うとともに、帰省後には帰省状況を振り返ることで次への課題を明確にし、段階を踏みながら取り組めるよう支援している。

(10) 通所による支援

① A25 地域のこどもに対する通所による支援を行っている。	評価外
<input type="checkbox"/> 通所支援に必要な予算・人員等が確保されている(又は、予算・人員等の特別な確保はないが、既存枠内で対応できている)。	
<input type="checkbox"/> 通所支援専用の施設設備が整備されている(又は、既存施設の有効活用により対応している)。	
<input type="checkbox"/> 通所支援が、施設の「事業計画」に規定され、組織的な取組が行われている。	
<input type="checkbox"/> 通所支援により、地域のこどもに対して相談支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

これまで、児童相談所から通所による支援ニーズがなかったことから、通所支援に必要な予算・人員等が確保されておらず、施設の「事業計画」にも規定されていない。